

ふかまのまど

第九号 一八年八月二日
発行元 深町連合町内会
連絡先 電話二七五二

深小だより

西日本豪雨災害

三原市立深小 学校

校長 松島 恵子

前日からの大雨に臨時休校となり、学校に待機した七月六日の夜、すでに深小の正門前の藤井川はあと五十センチほどで氾濫しそうなほどで、そのすさまじい流れに尋常でないものを感じながら学校を後にしました。あまりの激しい雨足に視界が遮られながらもなんと家に着いたそのとき、特別警報・避難指示を知らせる音が無線や携帯から一斉に鳴り響き、ほどなく停電。不安な一夜を過ごしました。町内で土砂崩れが起きたという知らせに、不安は募るばかり。学校は大丈夫だろうか、子どもたちは無事だろうか…。

翌日、川の氾濫で浸水したり、土砂崩れで家が倒壊したりして変わり果てた三原の様子をテレビ報道で目の当たりにし、言葉を失いました。被災された方はどれほどの恐怖だったことか…、どれほどの嘆き・悲しみを抱かれたことか…。

いたるところが通行止め、やっと学校に行くことができたのはその翌日。幸いにも深はそれほど大きな被害はなく、その後の断水もなく、三日間の休校で学校を再開することができました。ありがたいことです。学校がいつものようにあること、家がいつものようにあること、水がいつものようにあること、物資がいつものようにあること、それは決して当たり前なことではなく、有り難いことであることであらためて知りました。災害後、地域の方から、災害危険個所の情報をいただくこともありました。地域全体で子どもたちを見守っていただいていることもあらためて痛感しました。本当に有り難いことです。



ボランティア受付

猛暑の中、今なお救助活動をされておられる方、復旧活動にあたっておられる方、募金や物資提供をされている方、断水で不便な生活を続けておられる方など大勢おられます。そんな中、自分ができることを考え、行動されている方もたくさんおられます。井戸水や洗濯機の提供、食事の提供、お風呂などの提供、給水や土砂運びのボランティアをしている中学生…。多くの人々が助け合う姿に胸が熱くなります。頭が下がります。

そんな姿から、感謝の心、助け合いの心で自分にできることを考えて行動する力を深小の子どもたちとともに学んでいきます。

第十二回三原市民

グラウンドゴルフ大会

担当 頼兼 義詔



七月八日(日)に予定されていた健康づくりと安全で身近なスポーツを楽しむために本大会は毎年開催されていますが、今年度は、西日本豪雨災害の為、中止になりました。

深町子どもを守る会

子どもをみんなで見守りましょう。



深小の子供は

○暑前に下校します。

※全校登校日は、六日、二七日です。

○近頃、遠くまで、みんなで見守りましょう。

○あいさつ

声かけをしましょう。

「ふかまのまど」ホームページのアドレスは
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

歩く会に参加を

歩く会幹事 石井 堂照

久井町 吉田大池・野間川ダム周辺



月 日 八月二十八日(火)
予備日 八月三十日(木)

行程

八時 三〇分 深町上組公民館発(車)
九時 三〇分 久井町吉田大池野間川ダム発(徒歩)
十一時三〇分 探訪終了 昼食
十三時三〇分 深町上組公民館着(車)

※七月十七日(火)の歩く会は大震災の為に中止にさせていただきました。

※七月十一日(水)の城山サロンも大雨災害の為に中止にさせていただきました。

深町の植物

カ石 卓夫(三原市宗郷)

《ヘクソカズラ》



茎や葉を傷つけるとひどい悪臭が漂うと言えば、もうこれ以上の説明はしなくても名前の由来は想像できると思う。悪臭ゆえに可哀想な名前がつけられた。よって少しでも可愛らしく、別名ヤイトバナ(灸花)サオトメバナ(早乙女花)とも呼ばれる。

※七月二十一日撮影

謹んでお悔やみ申し上げます

川上 民 枝 様 八十一歳
(上組 辰巳講) 七月九日

深町各種団体八月行事予定

- ◆連合町内会 (中止)
- ▼盆行事 (中止)
- ◆中組町内会 一八日
- ▼二十三夜行事 一八日
- ◆小学校
- ▼全校登校日 六日
- ▼PTA環境整備 二六日
- ▼全校登校日 二七日
- ◆如水館中学・高校
- ▼南部地区大会(中) 一・二日
- ▼夏季講習(中) 一・二・三・六・八日
- ▼中期夏期講習(高) 一・二・三・五・六日
- ▼夏期講習(中) 一・二・三・三・二七・二九日
- ▼生徒会指導顧問会 三一日

TBG協会だより



第八十回三原市 ターゲット・バードゴルフ大会

第八十回三原市TBG月例会を七月十六日(月)に予定していましたが七日の西日本豪雨の影響により中止になりました。



コミュニティボックス

設置のお願い

この度ニチエー中之町店様にコミュニティボックスを設置する事になりました。ニチエー中之町店で買物された時のレシートを入り口横のコミュニティボックス「三原・ターゲット・バードゴルフ協会」に投函頂きますようお願いいたします。

期間は、平成三十年八月一日より十月末日までの三ヶ月間です。

TBG事務局 天木 雅之

第一中学校だより

「中学生になった私の目標」
一年 北迫 陽菜

新しい友達、出来るかな。と心配しながら入学した中学校。クラスが四つもあると聞き、知っていた私は、人数の少ない深小出身で、人が多いところにあまり慣れていませんでした。でも、もうそんな事を思い、心配していた私はいません。今は、優しく、たのしく、おもしろい友達や先輩、先生でいっぱいです。中学校生活は、毎日とても充実して楽しくてです。

自分で言うことではないと思いますが、私は、目標を立て、それに向かって努力する事が、得意(?)です。私は、それを、中学校で中学生として、しっかりと活かしていきたいです。特に、中学校では、部活動や、中間、期末、学年末と、たくさん試験などがあります。慣れていない事が多く、大変だけれど、それでも、目標を立て努力していきたいです。そして、私は、忘れ物をすることが多いので、忘れ物をしないように、念入りに時間をチェックする事も大切にしていきたいです。



私には、もう一つ目標があります。それは、「誰にでも、優しく、ていねいに接する」です。どうして、この目標にしたのかというところ、先輩方が、とても優しく、ていねいで、その姿にあこがれたからだと思います。私もそんな先輩になりたいと思いました。

私は、中学生を「なんとなく」で終わらすのではなく、「やり切った」という思いで終わらせたいです。そのために、目標に向かって、日々努力し、毎日を大切に、一生懸命過ごしていきます。

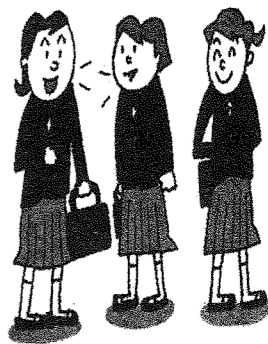
「中学生になって」

一年 迫 実侑

私は、四月から中学生になり、新しい生活がはじまりました。入学式では、不安ばかりでいろいろ心配だったけれど周りの方のおかげで不安がほぐれました。そして、体育館に入って大人数の前で一人ずつ返事をしました。自信を持って返事ができてよかったです。今では授業もはじまり、教科も小学生のころと比べて増えたので忙しくなりました。部活動もはじまり、土曜日や日曜日もしっかり休むということがあまりできなくなり、でも、みんながやさしく接してくださるので楽しく部活動に取り組むことができました。

そこで、学んだことは、自分から進んで行動するという事です。小学生のころから進んで前に出ることやみんなを引っ張って行くことなど自分から進んで行動することは苦手だったけど部活動を通して自分から進んで準備やかたづけなどができるようになりました。

一年生の目標の『凡事徹底』が二年生になるまでにはできるようになりたいです。あたり前のことをあたり前にするということを意識して過ごしていきたいです。



中学生になって、生活も変わって、新しい友達も作って楽しく毎日を送っています。これからも、みんなで協力していきたいと思いましたが、最後までやり切りたいです。三十四人で力を合わせて一年間過ごして行こうと思えました。

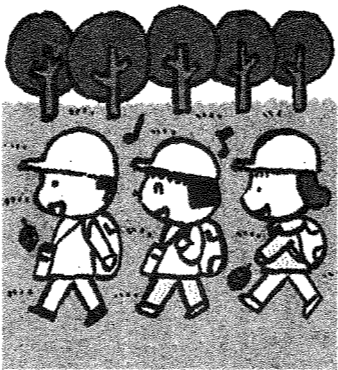
深小今昔ものがたり(十)

お迎え遠足(水源池の巻)

尾道市美ノ郷町

石井 哲代

新学年になると、一年生お迎え遠足がありました。久山田の水源池がおきまりでした。一年生は始まるの集団行動です。リュックにお弁当を入れて背負い六年生に手をつないでもらって、いざ出発!!



下組へ向って 中組の頼兼さんの前に郵便局がありました。そこを右に曲がり平岡さん宅の前を通っていよいよ久山田街道の山路に入ります。六年生も大変だったでしょうね。躓かぬように、転ばぬように、一年生をサポートしながらの山路の行進は、峠を越えるのと眼下に久山田の盆地が開けます。

「ウワッ!!」と、歓声が上がります。「うみじや」「海じや」の声も。桜も花盛り。子供の顔もピンク色。お母さんが作って下さったお弁当。「美味い」「美味い!!」子ども達の喜ぶ姿に声に桜も感動して、「ひとひら」「ひとひら」舞ってくれます。そこへ水源池の管理人さんが「深の子じやけ」六人位ずつ、ボートへ乗せて水源池を一周してあげましょう。」と、言ってお下さいました。「舟に乗るんじや。」「うみを一周するんじや。」「みんな大喜び順番をきめて乗せて頂きました。ところが一人の女の子が桜の幹にしがみついて「乗らん!! 乗らん!! こわい!! こわい!!」大泣きでした。

「ええよ、ええよ、先生と一緒にここで、みんなを待たせよ。」泣きやんだ彼女がボートからは「○○ちゃん、○○ちゃん。」の叫び声こんな遠足もありました。

『栖本郡代 石原太郎左衛門之事』

第七回

『松浦記集成』に

「烟(波多) 参河佐源渡二千石。烟城に居、天草四万石郡代。右郡代の下に代官四人、知行八十石宛。天草に住、石川宗左衛門・坂本四郎・村上久次郎方・江口又一。大庄屋四人、原太郎左衛門・山上九一郎・林源一郎・山本次郎助。脇庄屋百四人。」とある。

寺沢高が、慶長六年(一六〇一)天草を拝領して、天草の統治を始めた頃の支配体制と思われるが、トップが郡代、「烟参河佐源渡」で、松捕党の一族の波多氏に係わりがあると思われる、波多の城に居て天草には居住していなかったのであろう。天草は、この郡代の下で、天草に住む四人の代官が統治し、この代官を支えたのが大庄屋四人と言う事である。もしかしたら、代官も大庄屋も、天草を四分割して配置されたのではなからうか。当時天草は百八ヶ村とされているが、詳細は不明である。百四ヶ村には脇庄屋(小庄屋)が置かれていたので、大庄屋は二十数ヶ村庄屋を取りまとめる立場である。この四人の大庄屋の一人が、原太郎左衛門であるが、石原太郎左衛門と同一人物と想定される。仮定であるが、寺沢氏が天草を拝領した時期に、太郎左衛門を大庄屋(惣庄屋)に登用したとすれば、死亡したとされる寛永十四年(一六三七)までの概ね三十六年間、大庄屋と郡代を務めた事になる。登用された時の年齢は不明ながら、世襲では無いので、相応の年齢と考えると、三十歳近くで初登用を想定すると、死亡したとされる寛永十四年当時は、六十五、六歳だったと思われる。地侍だったとする、太郎左衛門と同様な状況や身分であった、天草五人衆の一族や家臣は数多く居た筈で、何故、大庄屋から郡代へ出世したのであるうか。天草五人衆の一人、栖本氏は、栖本又七郎鎮弘が、加藤忠広肥後藩主に二百五十石で仕官。細川家では二百石に。天草五人衆の中で最大の勢力を誇った天草氏は同じく加藤家に五百石で仕官。大矢野氏は細川家では二百五十石。これらを見ると、石原太郎左衛門の大出世振りが判る。ましてや、太郎左衛門は五人衆の直系とは考えにくい。栖本の郡代と言う事で、栖本と縁のある人であるとするば、まず考えられるのが、栖本氏との関係である。栖本氏の直系は、天草天正合戦(天正十七年 一五八九)後、小西行長の家臣として宇土に住んでいたが、文禄・元年(一五九二)の梅北の乱(梅北一揆)で死亡し、次男の甚右衛門通隆は、文禄・慶長の役で朝鮮に出陣し、慶長の役で戦死している。家系図によれば、又七郎鎮弘が加藤清正・忠広の家臣となり、加藤家改易後は細川家に仕官している。た

だ直系でなくても栖本氏の傍系は栖本に住んで居たと思われる。

※②『本渡市史』P374『松浦記集成』は寺沢氏が松清の東部地域を領地としていた頃の文書。

※③『栖本町史』P180

執筆 鶴田 耕治
発行 金子みち子

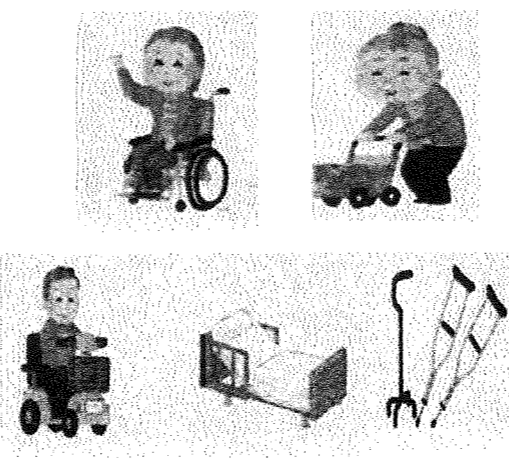
(次号へ続く)

高齢者相談センター
どりいむだより
電話 六一一四四一〇

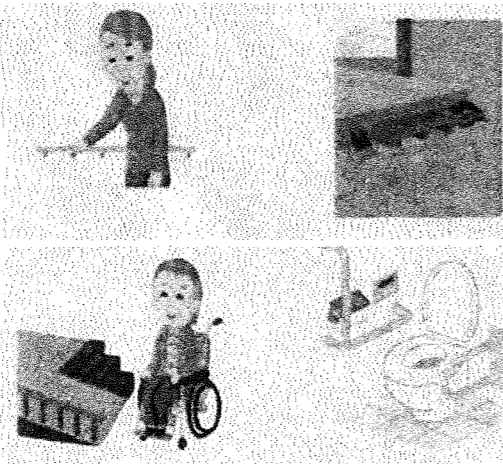
在宅介護の環境を整えるサービス

介護が必要になっても、①福祉用具の利用 ②住宅改修をすることで生活に幅が広がり日常生活の動作がしやすくなるなど、身体への負担を軽減させることで自立度を高めることができます。介護をする人の負担も軽減されることも大きなメリットです。

①福祉用具の利用
日常生活での自立を助ける、歩行器、手すり、杖などの福祉用具を借りることができます。



②在宅改修
自宅での転倒などを防ぎ自立した生活を送りやすいよう、段差の解消、手すりの取り付けなど住宅改修を行ったときにその費用の一部が支給されます。



①②ともに対象者や利用のしかたなどがあるため、高齢者相談センターや介護支援専門員(ケアマネジャー)などへ相談ください。

高齢者相談センターどりいむでは、高齢者の日常生活上のあらゆる相談に応じています。
お気軽にご相談ください。
(相談は無料です)